

- 問1 北条泰時が「御成敗式目」を定めた目的と、その内容についての説明として最も適切なものはどれですか。(2022年 長野県公立入試 類似)
- 承久の乱の後に増えた土地をめぐる争いを、武士の慣習に基づいて公平に裁判するため。
 - 江戸幕府の支配を強めるために、大名が守るべき道徳や行動制限を厳格に定めるため。
 - 戦国大名が自らの領地内における独自の支配権を確立し、領民を統制するため。
 - 享保の改革の一環として、裁判の迅速化を図るために過去の判例を整理するため。
- 問2 承久の乱において、敗れた後鳥羽上皇に対する処置と、その後の政治状況について述べた文として正しいものはどれですか。(2020年 千葉県公立入試 類似)
- 後鳥羽上皇は隠岐に流され、幕府は朝廷の監視を強めるとともに、上皇側に味方した貴族や武士の所領を没収した。
 - 後鳥羽上皇は佐渡に流され、幕府は天皇を中心とする政治を認める代わりに、全国の税を徴収する権利を得た。
 - 後鳥羽上皇は土佐に流され、幕府は新たに「御成敗式目」を制定して朝廷と公家が守るべき法を定めた。
 - 後鳥羽上皇は伊豆に流され、幕府は朝廷の力を取り上げるために、京都に將軍の代理として鎌倉公方を置いた。
- 問3 曹洞宗の開祖である道元は、場所を選ばず「ひたすら座禅をすることである」と説きました。このような鎌倉新仏教の特徴と、普及の背景について説明した文として最も適切なものはどれですか。(2019年 群馬県公立入試 類似)
- 伝統を重視し、奈良時代からの古い教義をさらに複雑化したことで支持を得た。
 - 修行には膨大な費用と時間が必要であったため、富裕な商人の間のみ流行した。
 - 生活の場や時間を問わずに行える修行法を提示し、民衆の生活に寄り添った。
 - 祈祷によって病気を治すといった、貴族向けの現世利益のみを追求した。
- 問4 古代の貴族中心の文化に対し、鎌倉時代以降の中世では武士の気風が強く反映された文化が発展しました。この時代、座禅によって自ら悟りを開こうとする教えが武士に広く受け入れられましたが、その主な理由として適切な説明を選んでください。(2025年 岡山公立入試 類似)
- 質素で厳格な修行を重んじる教えが、当時の武士の生活態度や気風に合致していたため
 - 人形浄瑠璃のような演劇と結びつき、戦場での武士の活躍が広く語り継がれたため
 - 国学の普及にともない、日本古来の伝統や精神を重んじる武士が増加したため
 - 浮世草子に見られるような、町人の華やかな生活様式を武士が取り入れたため
- 問5 鎌倉時代の將軍と御家人の関係を示す「御恩」と「奉公」の仕組みについて、その具体的な内容を説明した文として最も適切なものはどれですか。(2018年 長崎県公立入試 類似)
- 將軍が御家人の領地を保護する代わりに、御家人は軍役などの義務を負った。
 - 將軍が全国の土地を国有化し、御家人には功績に応じた給料を支払った。
 - 御家人が將軍に土地を寄進し、將軍がその土地を莊園として管理した。
 - 御家人が幕府に税を納める代わりに、將軍が御家人の官位を保証した。
- 問6 鎌倉幕府が置かれた鎌倉の地は、軍事的な防衛を強く意識した都市構造を持っていました。当時の鎌倉の地形的特徴と、それに関連した防衛の仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2022年 山口公立入試 類似)
- 広大な盆地の中心に位置し、四方に張り巡らされた水路によって外敵の侵入を防いだ。
 - 三方を山に囲まれ南は海に面した地形で、山を切り開いた狭い通路のみを外部との連絡路とした。
 - 太宰府のように水城と呼ばれる大規模な堤防を築き、海から上陸する敵の攻撃を遮断した。
 - 平坦な土地に巨大な石垣と堀を幾重にも配置し、陸上交通の要所を完全に封鎖した。
- 問7 鎌倉時代初期、東大寺南大門の再建に伴って制作された、筋肉の隆起を強調し力強く構える姿が特徴的な彫刻作品の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。(2026年 富山公立入試 類似)
- 金剛力士像
 - 弥勒菩薩像
 - 釈迦如来像
 - 阿弥陀如来像
- 問8 鎌倉幕府が設置した「守護」と「地頭」の違いについて述べた文として、地頭の性質を正しく説明しているものはどれですか。(2026年 千葉公立入試 類似)
- 莊園や公領といった単位ごとに細かく設置され、現地の年貢徴収を担った。
 - 原則として国ごとに一名設置され、大番催促などの軍事的な権限を持った。
 - 承久の乱の後に、後鳥羽上皇を監視するために京都に設置された。
 - 裁判の公平を期すために、御家人たちの訴訟を取り扱うために設置された。
- 問9 平安時代末期から鎌倉時代にかけての土地制度の変化について、地頭という用語を用いて正しく説明しているものはどれですか。(2023年 神奈川県公立入試 類似)
- 源頼朝は、国ごとに任命された地頭を通じて、朝廷の国司が行っていた行政をすべて廃止させた。
 - 源頼朝は、平氏を滅ぼした後に全国の莊園や公領へ地頭を設置し、幕府が年貢の徴収に関与できるようにした。
 - 鎌倉幕府は地頭を貴族の中から選ぶことで、朝廷と幕府が共同で莊園を管理する体制を築いた。
 - 地頭は、全国の武士に領地を分け与える際の土地調査を行うことを唯一の目的として設置された。
- 問10 鎌倉幕府が滅亡に至るまでの背景と経緯について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。(2022年 千葉県公立入試 類似)
- 元軍の襲来(元寇)の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満が強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。
 - 承久の乱において朝廷軍が勝利し、その勢いに乗った新田義貞や足利尊氏が鎌倉の北条氏を滅ぼした。
 - 北条時頼が建長寺を建立して禅宗を広めたことにより、仏教勢力との対立が激化し、足利尊氏が天皇の命令を受けて幕府を滅ぼした。
 - 足利義満が日明貿易を独占したことに反発した有力な御家人たちが、後醍醐天皇を担ぎ出して1333年に鎌倉幕府を滅ぼした。
- 問11 鎌倉時代の中期ごろまで武士の間で行われていた、一人の父親が持っていた広い領地を複数の子供たちにそれぞれ小さな区画として引き継がせる相続方法を何といいますか。(2026年 山口公立入試 類似)
- 分割相続
 - 単独相続
 - 永年私財法
 - 檢地
- 問12 鎌倉時代後半、二度にわたる元軍の侵攻(元寇)を退けた後、幕府の支配体制は揺らぎ始めました。戦いには勝利したものの、幕府に仕える「御家人」の生活が困窮し、不満が高まった理由として最も適切な説明を選びなさい。(2018年 秋田県公立入試 類似)
- 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。
 - 元軍に勝利したことで宋との貿易が途絶え、物資が不足して急激なインフレーションが起きた。
 - 幕府が御家人よりも足輕を優遇する軍制改革を行ったため、伝統的な武士の特権が失われた。
 - 元軍との戦いにおいて、幕府が御家人に領地の半分を返還させる「徳政令」を強制的に出した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 承久の乱の後に増えた土地をめぐる争いを、武士の慣習に基づいて公平に裁判するため。	鎌倉幕府の支配力が西日本まで拡大した結果、御家人同士や地頭と貴族の間で土地紛争が多発しました。泰時は、武士たちが納得できる公平な裁判を行うため、それまでの武士社会の慣習（道理）を法としてまとめました。なお、他の選択肢は順に「武家諸法度」「分国法」「公事方御定書」の説明です。
問2	答え 1 後鳥羽上皇は隠岐に流され、幕府は朝廷の監視を強めるとともに、上皇側に味方した貴族や武士の所領を没収した。	乱の結果、後鳥羽上皇は島根県の隠岐島に流刑となりました。幕府は上皇側に加担した貴族や武士の領地3000か所余りを没収し、手柄を立てた御家人を新たに地頭（新補地頭）として任命しました。これにより、それまで朝廷の影響力が強かった西日本においても、幕府の支配が急速に浸透することとなりました。
問3	答え 3 生活の場や時間を問わずに行える修行法を提示し、民衆の生活に寄り添った。	道元が説いた「只管打坐（しかんたざ）」のように、特定の場所や難しい学問を必要とせず、ただ一つの行いに打ち込むという姿勢は、鎌倉新仏教に共通する特徴です。旧来の仏教が厳しい戒律や多額の寄付を求めたのに対し、日々の生活で忙しい民衆でも実践できる形式をとったことが、武士や庶民への急速な普及に繋がりました。
問4	答え 1 質素で厳格な修行を重んじる教えが、当時の武士の生活態度や気風に合致していたため	鎌倉時代に中国から伝わった禅宗は、座禅という厳しい修行を通じて悟りを開くことを目指しました。この教えが、無駄を省き実力を重んじる武士の質素・厳格な気風に適していたため、幕府の保護を受けて広まりました。人形浄瑠璃、国学、浮世草子はいずれも江戸時代の文化や学問に関連する用語であり、中世の武士の文化とは時代背景が異なります。
問5	答え 1 将軍が御家人の領地を保護する代わりに、御家人は軍役などの義務を負った。	鎌倉幕府の主従関係は、土地を介した双務的な関係です。将軍は「御恩」として、御家人の領地（本領）を保証したり、新たな領地を与えたりしました。その見返りとして、御家人は「奉公」として、戦時に軍勢を率いて駆けつける軍役や、京都や鎌倉を警護する番役を負担しました。このように、土地の保証を対価として義務を果たす仕組みを封建制度といえます。
問6	答え 2 三方を山に囲まれ南は海に面した地形で、山を切り開いた狭い通路のみを外部との連絡路とした。	鎌倉は、三方の山が城壁の役割を果たし、南の海が堀の役割を果たすという、要塞としての機能を持った都市でした。陸路で外部とつながる場所は、山を切り開いて造られた「切通し」と呼ばれる非常に狭い通路に限定されていました。これにより、敵の軍勢が一斉に攻め込むことを難しくし、少ない兵力でも都市を守りやすくする工夫がなされていました。選択肢にある「広大な盆地」や「水城」は、鎌倉の地形的特徴とは一致しません。
問7	答え 1 金剛力士像	鎌倉時代初期の文化は、武士の台頭を背景に、力強く写実的な表現が好まれました。東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、その力強さを象徴する代表的な作品です。阿彌陀如来像などは主に平安時代後期の浄土信仰において多く作られました。
問8	答え 1 荘園や公領といった単位ごとに細かく設置され、現地の年貢徴収を担った。	守護と地頭は、配置される地理的単位と役割が異なります。守護は「国」単位で置かれた軍事・警察的な役職であるのに対し、地頭はより狭い「荘園（私有地）」や「公領（国衙領）」ごとに置かれた、経済的・実務的な土地管理職でした。この地頭の配置によって、幕府の支配力が全国の隅々まで及ぶことになりました。
問9	答え 2 源頼朝は、平氏を滅ぼした後に全国の荘園や公領へ地頭を設置し、幕府が年貢の徴収に関与できるようにした。	歴史的な変遷を整理すると、1185年に源頼朝が守護・地頭を設置したことが大きな転換点です。これにより、荘園や公領において従来からいた荘園領主や国司の力が弱まり、代わって幕府から派遣された地頭（武士）が現地で実質的な支配力を高めていくことになりました。これは、武家社会が形成される過程で非常に重要な出来事です。
問10	答え 1 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満を強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。	鎌倉幕府は元寇後の恩賞問題などで御家人の支持を失い、政治的な混乱に陥っていました。この隙を突いて後醍醐天皇が倒幕を呼びかけ、これに呼応した足利尊氏や新田義貞などの有力な御家人の離反を招いたことが決定打となりました。建長寺を建立した北条時頼は5代執権であり、幕府の全盛期に近い時代の人物です。また、足利義満は室町幕府の全盛期を築いた将軍であり、時代設定が異なります。
問11	答え 1 分割相続	鎌倉時代の武士の世界では、領地を子供たちに分けて継承させる「分割相続」が一般的でした。しかし、この方法を何代も繰り返すと、一人ひとりを受け継ぐ領地は次第に細分化されて狭くなっていきます。これが、御家人の経済的な基盤を弱める大きな要因となりました。
問12	答え 1 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。	鎌倉幕府の主従関係は、将軍が領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」で成り立っていました。しかし、元寇は外国からの侵略を阻止する防衛戦であり、勝利しても奪える敵地がなかったため、莫大な戦費を負担した御家人に十分な恩賞を出すことができませんでした。これが幕府への忠誠心を低下させ、倒幕への動きに繋がりました。